

ないえ会 会報 No.20

2016年12月25日

- 虐待が無いように 私たち親・保護者ができること：大原睦生
- ないえ福祉会 Q&A：事務局



今年から始めたみみずくのトンカツ定食

虐待が無いようにするために 私たち親・保護者ができること (1)

ないえ会 会長 大原睦生

「知的障がい者の権利擁護と虐待防止」については、本会報 No.19 で障がい者支援施設ないえ生活支援員櫻田法子様にご執筆いただきました。今回、虐待防止について私たち親・保護者にできることを考えてみたいと思います。

今の福祉制度は契約制度です。悪い施設事業所とは契約しないことができます。親・保護者は良い施設事業所に子供を通わせる義務があり、また、手段方法はその場その時でいろいろですが、親・保護者は子供の利用する施設・事業所をより良いものにしなければいけないと思います。親・保護者・利用者はお客さんです。良いお客になりましょう！このことの例えに、「良い飲み屋は客筋がいい」という話があります。客が良いと店は良くなる。良い店には良い客が来る。ひよここと卵です。

「良い施設事業所」にするとは、①開かれた施設事業所にする、②支援の職員に気持ちよく働いてもらう施設事業所にするこの二つが重要と思います。

開かれた施設事業所とは逆の閉鎖された施設事業所で虐待事件の多くが発生しています。その一例として、2013年11月に19歳の利用者が職員の暴行による「敗血症による多臓器不全」で死亡するという虐待事件のあった袖ヶ浦福祉センター養育園2寮の例を見てみたいと思います。

袖ヶ浦福祉センターは施設が閉鎖社会であって、他の福祉施設や社会から孤立していた（佐藤彰一、成年後見 61, 2016, p.63）と報告されています。閉鎖社会であるということ、孤立しているということはどういうことでしょうか。袖ヶ浦の例では、以下のような報告があります（千葉県障害者虐待事例集, 2015, p.49-54.）

- 袖ヶ浦福祉センターは外部からの来訪者が少ない施設でした。
- 保護者の方もあまり訪れることがありません。
- 日中活動は施設内で行われています。
- 事務的なことは支援現場から離れた事務棟ですべて対応し、センター長は事務棟で仕事をしていました。
- 県の職員や監査担当者が訪れるときも、事務棟に寄ったあとに支援現場の視察をすることはありますが、個々の利用者の生活状況をみることはありません。
- 診療室は支援現場とは独立して施設内に存在しており、医師はもちろん看護師もそこに常駐して、支援現場にはいませんでした。
- センターの養育園と更生園はそれぞれ独自の運営を行っ

ており職員の交流も少なく、養育園においては施設長も事務室にいて支援現場をみる事がほとんどありませんでした。

- 施設自体が社会から閉ざされており、支援現場もそれぞれが閉ざされていたのです。特に養育園2寮は、建物内にある寮の入り口で施錠され、窓は目隠しで覆われ、外からは中を見ることはできなかったそうです。
- 養育園2寮と隣接する寮との間は同じ建物内ですが、鉄格子を電動で上下させることで廊下を遮断していました。そうした閉鎖的な生活空間。これが袖ヶ浦福祉センターだったのです。
- 外から人が訪れることも少なく内部的にも隔離されている、こうした閉鎖性ゆえに外部は虐待に気づくことができにくい構造が出来上がっていたのです。

施設事業所が密室化しないようにするために、ボランティアやオンブズマンといった第三者が随時施設事業所を訪れる環境にしておくことが重要です（沖倉智美, 成年後見, 61, p.23）。もちろん、親・保護者も機会を作り、施設事業所を訪れることが大切と考えられます。

次に、支援の職員に気持ちよく働いてもらう施設事業所にするのですが、私は、支援する職員が気持ち良く働いていないで、利用者が気持ち良い支援を受けることは非常に難しいと考えています。支援の職員に気持ちよく働いてもらう施設事業所であることは利用者にとってとても大切なことであり、福祉職員の働きやすい環境の確保を北海道知的障がい児・者家族会連合会（道家連）は活動方針の一つとしています。

「道家連アンケート調査報告（2016, p.10-13）では支援職を魅力あるものにするために施設・事業所が取り組んでいる最も多いことは職場環境の改善で、都市部 35.7%、郡部 44.1%だったと報告されています。平成27年度事業所における介護労働実態調査及び介護労働者の就業実態と就業意識調査（介護労働安定センター 2016, p.13）では、職員が介護の仕事をやめた理由は、「職場の人間関係に問題があったため（25.4%）」、「法人や施設・事業所の理念や運営のあり方に不満があったため（21.6%）」という2項目が上位を占めていました。

職場環境を改善し、風通しの良い職場づくりのため、施設事業所だけでなく親・保護者も、方法はいろいろですが、努力しなくてはならないと考えられます。

ないえ福祉会 Q & A (5) ないえ福祉会について

Q1～ないえ福祉会は、どのようにできたのですか？

A1～開設当時を知る職員はいませんが、古い資料等を調べると「奈井江学園（現在のないえ福祉会）法人設立関係者は、昭和 50 年より隣接美唄市児童福祉施設美唄学園と提携し、同学園在園期間満了者を対象に職業訓練を担当してきました。当時、奈井江町にありました道立産業開発青年隊が廃止となり、その跡地を活用し「奈井江町福祉の里」として開発すべく計画を進め、道、町の指導のもと、町内関係団体、企業等の理解と協力を得、昭和 53 年 11 月に法人の認可を受け、昭和 54 年 4 月に定員 35 名で奈井江学園の運営を開始しました。」とあります。当時の資料を見ると初代の理事長や関係者の方々の理解と協力があり、施設ができたことがわかります。



開所当時の建物。今は椎茸ハウスですね

Q2～ないえ福祉会の職員数は何人ですか？

A2～ないえ福祉会全体の職員は、生活支援員、調理職員の他にグループホームの世話人やヘルパー等も含めて全部で 83 名です。男女に分けると男性が 33 名、女性が 50 名となっています。ケアマネージャー、介護福祉士などの資格を持つ職員数も多くなりました。また、ここ数年では、勤務しながらこれらの資格取得に努力している職員もいます。

Q3～ないえ福祉会では、どのような事業を行っているのですか？

A3～今までの会報でも紹介をしてきましたが、ないえ福祉会では障がい者支援施設ないえで施設入所と生活介護事業、短期入所事業を行い、就労支援センターすまっしゅで就労継続支援 B 型と就労移行支援事業、みどり荘で共同生活援助（グループホーム）、サポートセンターばすくとで居宅介護、行動援護、外出介護、訪問介護、介護予防訪問介護事業を行っています。

Q4～行事で一番長く続いているのはどのような行事ですか？

A4～父母が参加している行事では開所式です。4 月初め、理事、職員、利用者とその家族が出席して開催します。その日は職員も利用者もスーツやジャケットを着て出席します。そこで、新入職員の紹介や各クラスの職員・利用者が紹介されます。その後、全員で会食します。



2016 年の開所記念式典で挨拶する理事長

利用者と職員の行事では、秋の旅行があります。1 泊で温泉に行くことが多いですが、日帰りのこともあります。今年の 1 泊旅行は登別マリンパークを見学し、第一滝本館に宿泊してきました。



2009 年のバス旅行。みんな乗りますよ！！

Q5～その他にどのような行事がありますか？

A5～各事業で違いはありますが、大きな行事では春に謝恩会、開所式、夏はわいわいないえ祭り、夏季行事、秋は自治会行事、冬はクリスマス会、餅つき行事、新年会などがあります。その他、空知の事業所が集まって行うソフトボール大会、パークゴルフ大会、卓球大会などがあり、一年を通し色々な行事があります。これらは次の機会に紹介します。

編集後記

ダウン症の人の 9 割が「毎日幸せ」と感じている。朝日新聞 16/11/24 の記事です。加藤美代子さん（67）は「この子のおかげで、私の人生に厚みや幅ができた」とコメント。津久井やまゆり園の事件の後、ちょっとホッと記事でした。会員の皆様からのご意見などお待ちしております。